

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

令和5年 11月 10日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋作 様

所属部局 大学院生命科学研究科

職 名 教授

氏 名 河内 孝之

助成の種類	令和5年度 ・ 国際会議開催助成		
国際会議名	日仏連携による植物科学のフロンティアシンポジウム France-Japan Frontiers in Plant Biology 2023		
開催期間	令和5年 10月 23日 ～ 令和5年 10月 24日		
開催場所	京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホール		
参加者	総数 105名	内訳 フランス側19名、日本側86名	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	事業に要した経費総額	1,612,855 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 会議参加費、バンケット参加費	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	会場費・ポスターボード設営費	409,700	409,700
	会議費	164,211	164,211
	講演者旅費・交通費	223,424	223,424
	運営費・要旨集作成費	55,880	54,665
謝金(運営補助)	148,000	148,000	
会議弁当・ポスターセッション軽食費	222,738	0	
バンケット経費	389,342	0	
合 計	1,613,295	1,000,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴財団の支援により植物科学の異なる専門分野をカバーし、議論を深める密な国際交流機会が実現しました。京都大学の大学院生・博士研究員を含む若手研究者の国際的活動の啓蒙につながりました。感謝いたします。		

成果の概要

令和5年10月23日から24日に京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホールにて、河内孝之（京都大学生命科学研究科教授、組織委員会代表者）と François Roudier（フランス リヨン大学教授）を日本側およびフランス側の代表者として国際会議 France-Japan Frontiers in Plant Biology 2023（日仏連携による植物科学のフロンティアシンポジウム 2023）を開催した。これは、1990年代から日本およびフランスで開催される植物科学に関する二国間シンポジウムの第14回となる。これは単に歴史を重ねるだけでなく、開催時に最先端の植物研究を推進する研究者が専門分野を超えて集い、地球規模の課題解決に向けて技術革新が著しい植物科学のフロンティアを開拓することを目的とするシンポジウムである。当初は2021年に日本での International Research Network (IRN)のキックオフミーティングとして計画され、最先端の研究成果に関する議論を中心に交流を促進し、共同研究を加速することを目指したものである。コロナ感染拡大により、2021年度と2022年度はオンライン Webinar を中心とする活動とせざるをえなかった。今回はコロナ感染が一段落した2023年に日仏の植物科学のフロンティア研究を進める研究者が京都に集まることができ、ようやく対面開催となった喜びと今後の活発な交流が期待できる国際会議となった。

当日は、両国の代表である河内教授、Roudier 教授の開催挨拶に続き、在東京フランス大使館 Dupuis 氏から CNRS の国際協力体制について説明があった。その後、二日間にわたり、4つのセッション（Cell Biology and signal transduction、genome dynamics and epigenetics、development and adaptation、photosynthesis and metabolism）に各7演題ずつ合計28演題のロングトークが行われ、活発な質疑応答が行われた（講演時間25分、日本15演題、フランス13演題）。また、フランス側からは3題のショートトーク（15分）、日本側からは22題のポスターフラッシュトーク（2分）が行われた。ホワイエに設置したポスターは43題に上り、休憩時間中にも閲覧を可能にするとともに、初日の午後6時から8時過ぎまで活発にポスター発表と質疑応答が行われた。若手の研究を奨励する仕掛けとして学生および博士研究員のポスター発表を対象に優秀ポスター賞を設け3名に授与された。フランスから19名、日本から86名、合計105名の参加登録があった。日本の参加者には多数の京大生を含む49名の学生が含まれ、次世代の研究者育成にもつながる活動となった。さらに2日目バンケット、翌日のエクスカージョンが開催され、日仏研究者の交流を深めた。

上記の活動により、日本とフランスの二国間連携のスキームを活用して将来の植物科学のさらなる展開の基盤を形成するとともに、研究交流と人材育成の加速という当初の目的を達成した。コロナ禍のあとの国際共同研究の実質化や若手研究者の国際活動の推進につながることは間違いない。京都大学教育研究振興財団からの支援は、会場費、会議運営費、旅費補助、優秀若手研究者表彰などに使用させて頂いた。多大なご支援にこの場をお借りして心よりの謝意を申し上げる次第である。